

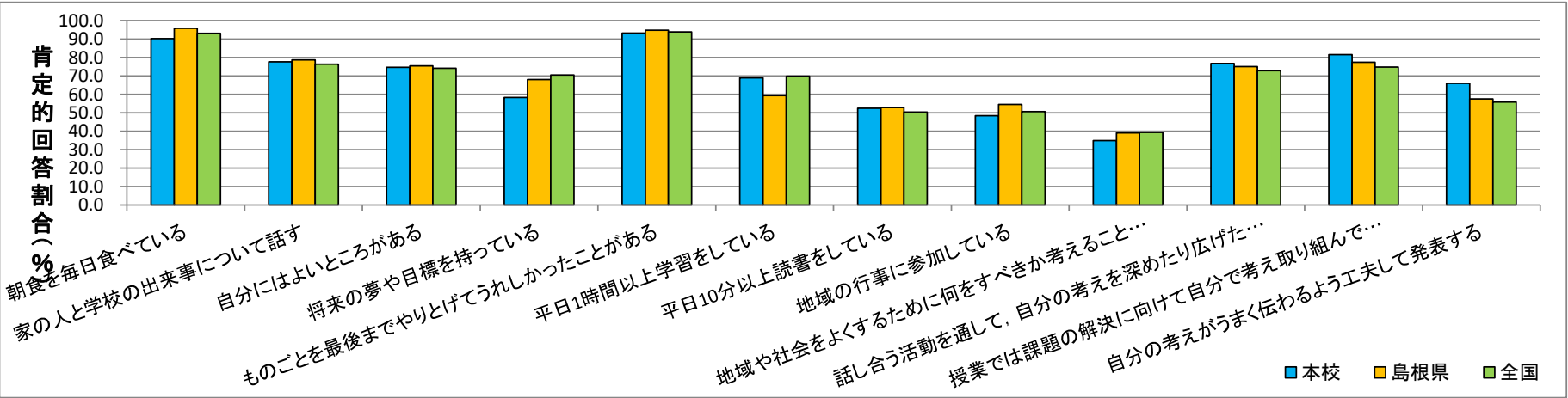
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○自分で課題を設定したり, 小グループでの活動を取り入れたりした学習を行ったことにより, 国語への興味・関心が高まった。 ○話すこと, 聞くことに関する設問の正答率が高く, 無回答率も低い。 ●複数の情報から必要な情報を読み取る力が弱い。 ●はがきや手紙の書き方についての知識が身についていない。	・まとまった文章だけでなく, 図表や非連続型テキストを扱った学習活動を増やす。 ・はがきや手紙の書き方についての学習をして, 実生活の中で投函する場面を作る。
数学	○三角形の合同条件を書く問題や連立方程式を解く問題は, 比較的正答率が良い。 ●ほとんどの領域において正答率が低く, 既習事項が定着していない。 ●関数や資料の活用といった, 事象を数学的に解釈したり情報を分析したりする力が弱い。 ●数学に対する苦手意識が根強い。	・基礎的事項の習得のために, ドリルや小テスト, 学び直しなどの時間をできるだけ授業の中で取り入れる。 ・グループ学習では, 教えあったり学びあったりする学習が良くてできるので, その時間を効果的に入れることによって全体の底上げを図る。 ・題意が把握しやすいように, 視覚的な教材・教具を用いたり, 問題文の読み込みを丁寧に行う。
英語	○「読むこと」「書くこと」は力をつけてきている。 ○短い英文や対話文を聞いてその内容を理解する力や, まとまりのある英文の概要を把握する力が, おおよそ定着している。 ●英文を聞いたり資料を読んだりして, 自分の考えを表現する力が不足している。無回答率も高い。	・自分の経験や考えを英語で表現する活動を定期的に取り入れたい。 ・回数を重ねることで, 自己表現への抵抗を減らし, 自信をつけさせたい。

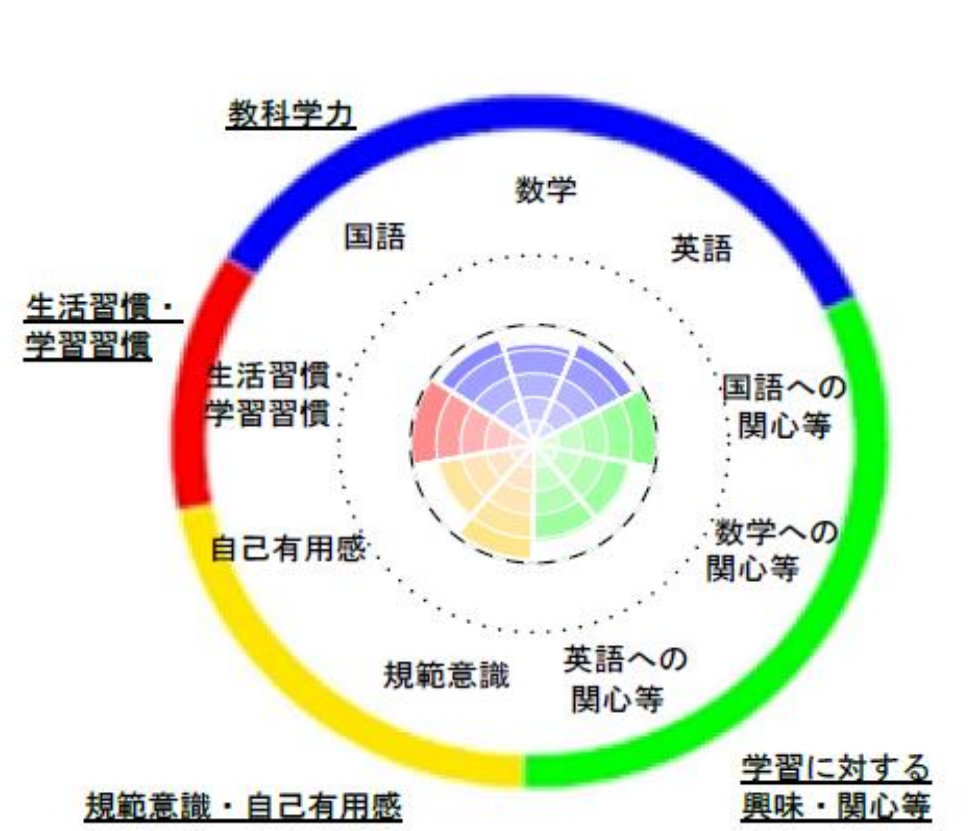
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○平日1時間以上の学習をしている生徒の割合が高いのは, 復習スタディノートの取組が定着している表れであると思われる。 ○話し合う活動を好み, 発表したり意見交換をすることで, 協力して問題解決に役立てている。 ●地域行事への参加状況や, 地域の一員として貢献していこうとする意識が, 県や全国に比べて低い。 ●将来の夢や目標を持っている生徒の割合が低い。	・引き続き「復習スタディノート」を活用し, 家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・地域支援コーディネーターと連携して, 地域の行事への積極的な参加を生徒会を中心として呼びかけていくとともに, 地域の教育力を学校で発揮してもらう機会を増やしていく。 ・3年間の進路学習を通して, 将来の自分の姿をイメージできるようなカリキュラムを研究していく。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや, 教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他, 今後特に力を入れて取り組むこと

・諸活動において, 身につけさせたい4つの力「協働する力」「表現する力」「解決する力」「創造する力」のいずれかに焦点をあてて, 学び方の工夫をする。 ・「問い」をもち, 学びの過程を「楽しむ」生徒の姿を目指し, そのための手立てを工夫する。 ・様々な学習や活動の場面で, 自己肯定感や自己有用感を高めさせることで, 自分を知り, 自分に自信を持てるように支援していく。そのために, 本校が取り組んでいる「パート活動」をさらに充実させていく。
--

【参考】

○平均正答率	本 校	松江市	島根県	全国
国語	70	73	73	72.8
数学	52	60	57	59.8
英語	52	54	53	56.0

受検者数 102 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は, 最少の受験者数をもって表示しています。